



文京学院大学女子高等学校への母校訪問

東京地本台東出張所は、10月17日（水）、文京学院大学女子高等学校を今年3月に卒業し自衛隊に入隊した東部方面通信群第320基地通信中隊松戸派遣隊の三木美德（みきよしえ）2士を迎え、母校訪問を実施した。

三木2士は、後期教育終了後所属部隊に配属されまだ2週間の忙しくも充実した毎日を送っている中ででの訪問であった。

母校の門に足を踏み入れた彼女は「懐かしいです。」と思わず笑みがこぼれた姿が印象的だった。

母校訪問では、2年間担任であった岩川暢澄教諭及び進路支援部長の佐藤泰正教諭と面会し、特にお世話になった岩川先生は彼女の自衛官になった制服姿を見て雰囲気の違いに驚くとともに卒業から短期間で堂々とした話し方になったと感心した様子であった。

また、在学中の思い出話や自衛隊入隊後の生活、訓練等の話に花が咲く中、彼女が学生の時にはあまり意識した事がなかった時間の使い方等自衛隊生活で学んだ事について話した内容に感銘し、是非、学生の前に立って自衛隊での話をしてほしいとの事で急遽教壇に立つこととなった。

教室では自衛隊の魅力や、楽しい事、苦しかった事、自衛隊に入隊して成長を実感出来た事等先輩からの話に、皆真剣に聞き入っていた。今回、文京学院大学女子高等学校への訪問は初めてであったが、自衛隊を身近に感じ、知って貰える良い機会であったことから、台東出張所は、これからも卒業生の母校訪問によるPRを通じて一人でも多くの入隊希望者を得られるよう活動してゆくとしている。



荒川区町会長のつどいでの防災講話

自衛隊東京地方協力本部（本部長 荒井正芳 陸将補）は、10月19日（金）「平成30年度荒川区町会長のつどい」に参加した荒川区内の各町会長等有識者113名に対して本部長による防災講話を実施した。

今回の防災講話は、元防衛政務次官であり現荒川区長である西川太郎氏からの依頼により実施され、「自衛隊の災害派遣」と題し、自衛隊の任務、自衛隊の災害派遣及び災害派遣活動の実相、防災上の心構えの5項目に沿って行われた。

特に、自衛隊は昨今報道されている地震や風水害等の自然災害に関する派遣以外にも離島からの患者輸送、高病原性鳥インフルエンザ等の動物由来感染症等にも幅広く対応していることや、震度5弱以上の地震発生の場合には速やかに情報収集できる態勢を確立して、陸海空の各自衛隊が速やかに初動対処出来るように備えていること等を図や写真により紹介し、初動の72時間以内で如何に迅速に捜索救助を行うかが課題であると説明した。

聴講した参加者は、東日本大震災における人命救助、各種支援及び原発事故対処の状況について、とても強い関心をもって聞き入っていた。

最後に、防災上の心構えとして、自衛隊に伝わる災害や事故の時に役立つ知識を説明するとともに、これらの知識をまとめた自衛隊LIFE HUCK（ライフハック）の紹介を行い、講話は終了した。

自衛隊東京地方協力本部は、今後多様な行事等を通じて一人でも多くの方に自衛隊の活動が理解され、その中から一人でも多くの入隊希望者が出るよう積極的に募集広報活動を推進していく所存である。

